

千代田  
区職労

退職者会 ニュース

第2016-8号  
16年11月15日  
退職者会  
ニュース  
編集委員会  
3221-0052

# 退職者会・秋のハイキング みりんの町・流山 江戸回廊を歩く



一茶双樹記念館で記念撮影

今年で5回目となった退職者会ハイキングは十一月十一日に行われました。天候はあいにくの小雨模様でしたが、一八人が参加しました。案内役は流山の住人・西本夫妻。

今回歩いた流山は、今では秋葉原から僅か二〇分程という場所でありながら、あまり知られていない街。江戸時代から江戸川の水運とみりんの一大産地として発展した街です。

ハイキングは老舗や蔵の残る流山本町から地名発祥の地と言われる赤城神社まで二時間ほどの散策。

近藤勇陣屋跡や寺田園茶舗見世蔵の万華鏡ギャラリーではお土産を買う人や、江戸川沿いの地形やみりん工場の広さに感心する人もいました。



赤城神社の大しめ縄に感嘆

富士山に登ると同じ御利益があるといわれる浅間神社富士塚には吉本さんが参加者を代表して登頂しました。

俳人小林一茶が生涯五〇回以上も訪れたという秋元家(みりんの創業者)の一

茶双樹記念館では、見事な庭を眺めながら一服のお茶をいただきました。

あいにくの雨と寒さで疲れた身体を一茶双樹記念館で癒した参加者はゴールの赤城神社まで歩ききり、鮫料理店での懇親会には全員が参加し、懐かしい？鮫の味が舌鼓を打ちました。

退職者会ハイキングは会員の住んでいる地域を散策していますが、また一つ近直す機会になりました。

## 多彩なまち・流山 新井繁雄

私にとって近藤勇の捕縛の地、というだけのイメージを持っていた流山に、11月11日(金)18名の参加の一人として楽しむことができました。江戸川のかつての渡し場所をスタートに8か所をめぐりました。歩いてみると旧家を活用したしゃれた店舗、良質な白みりん醸造の発祥の地、歴史のある神社・仏閣と多彩なまちです。さらに、一茶が流山に54回も来て、俳句づくりを楽しんだという第二のふるさとでもあったことを知りました。

今回の町歩きハイキングは流山鉄道の流山駅を出発して、武蔵野線・つくばエクスプレスの南流山まで歩数にして1万歩、時間にして2時間30分のぶらぶら歩きです。

また、懐かしい先輩方とお会いでき、話をし、楽しいひと時を過ごすことができました。無事、南流山の「くじら屋大樹」に到着し、お楽しみの懇親会です。今では珍しいクジラの竜田揚げや刺身、その他の美味しい料理が出てきて、大満足で帰ることができました。幹事さんお疲れさま、有難うございました。

## 歴史を感じて 近澤希朗

退職者会の流山ハイキングに参加しました。「流山」という地名は良く聞いていますが、馬橋駅から流山駅(関東の駅100選)までローカルなのかな電車に乗って今回初めて訪れました。

今回の企画をしていただいた、西本さんご夫妻の案内でスタート。心配された雨もそれほどでもなく、少し寒かったですが江戸川の矢河原の渡し跡に立ち、江戸時代には川が重要な物資運搬ルートであったことがわかりました。水運ルートにより商業が栄えたものの、輸送手段が車道路になって、賑やかであった商業地域も衰退していったようです。ただ、流山は「流山本町江戸回廊」として、現在も明治時代前後の土蔵造りの家屋と百数十年の歴史ある老舗呉服店などが、点在しています。

途中、明治22年(1890年)建築の寺田屋茶

舗が万華鏡ギャラリー「見世蔵」となっており、万華鏡のなかで写真を撮ったり楽しみました。また、一茶双樹記念館で休憩をとり、お茶とお菓子をいただきました。館の名前にある「双樹」とは、みりん醸造で財を成した秋元家五代目秋元三左衛門の俳号「双樹」から名付けたようです。一茶とは親交が深く一茶自身も数十回流山の地を訪れたとのこと。また、昔の大富豪は積極的に財政的にも援助を惜しまなかったようです。

雨も上がり、懇親会場の「くじら屋大樹」に向かいました。今では大変高価なくじらの竜田揚げやお刺身をいただき、交流を深めました。軽井沢から参加された会員の方もいて、あらためて退職者会の絆の深さに感心させられたところです。また、是非参加しようと思っておりますので、よろしく願いいたします。皆様ありがとうございました。

# 「戦争法」廃止を求める国会行動 10月も参加

## 南スーダン派遣、TPP批准、「土人」呼ばわりに怒りの声

退職者会は「戦争法」（安保法制）に反対し、昨年九月一九日にこの法律が強行成立して以来、一年以上にわたって毎月一九日に行われている戦争法廃止を求める国会行動に欠かさず参加してきました。これまで、会の呼びかけに応じて参加した会員は延べ九八人になっています。



昨年八月、国会に一〇万人の人が押し寄せた。安倍政権はそうした民意を踏みにじって強行成立させました。この法律は憲法に違反し、日本を再び「戦争する国」に作りかえるものです。戦争体験を持つ世代で作っている退職者会の「戦争反対、憲法9条擁護」の立場は不変のものです。「戦争法」の廃止を求め続けることは私たち退職者会の矜持であると考えます。

### なぜ、退職者会は毎月一九日の国会行動に参加し続けるのか？

退職者会 事務局 長 服部 明

昨年八月、国会に一〇万人の人が押し寄せた。安倍政権はそうした民意を踏みにじって強行成立させました。この法律は憲法に違反し、日本を再び「戦争する国」に作りかえるものです。戦争体験を持つ世代で作っている退職者会の「戦争反対、憲法9条擁護」の立場は不変のものです。「戦争法」の廃止を求め続けることは私たち退職者会の矜持であると考えます。

一〇月一九日の行動にも六人が参加しました。この日の集会では、南スーダンへの自衛隊派遣の強行、TPP批准を強行採決しようとしている問題、沖繩・高江での機動隊の「土人」呼ばわりと連日の暴行、などアベ政権のむちや振りがリアルに報告され怒りを呼びました。一方、新潟県知事選挙勝利に示された「市民と野党の共闘」こそが安倍

政治を終わらせることができる、という確信に満ちた盛り上がりを感じられました。退職者会がなぜ熱心に記のように語っています。事務局長の服部さんは右記のように語っています。

### 水上会長・区職労大会であいさしし激励

区職労の定期大会が十一月九日夜、区役所内で行われました。水上会長が来賓として挨拶し、現役組合員の奮闘に敬意を表しつつ、職員の賃上げが年金にも跳ね返ってくることを紹介しながら区職労活動を励ましました。



## 定期総会を開催します

年1回の総会は毎年1月に行っています。2017年の総会を下記日程で開催します。会員の皆さんは誰でも参加できますので、ぜひご参加ください。総会終了後は恒例の「新年会」を行います。手作り料理と歌や演奏などもある楽しい集いです。

### 2017年定期総会と新年会

2017年1月27日（金）  
総会 午後4時から  
新年会 午後5時45分頃から  
(場所は追ってお知らせします)

## 11・19 国会行動

安倍政権の暴走止めよう！  
自衛隊は戦地に行くな！  
11・19国会議員会館前行動  
午後1時30分 永田町小学校前集合  
11月19日 日 14:00~15:30

## 辺野古新基地建設を許さない！

12.10 東京集会 (仮称)  
12月10日 (土) 13時半~  
場所：日比谷野外音楽堂  
退職者会は  
午後1時に日比谷図書館前集合

大会では、今年の勧告が三年連続の賃上げとなつたものの、住宅手当のカツトなどで実質マイナスになつていて、厳しい状況が続いているといった報告がありました。

手記

# 原発再稼働にノ一の審判！

## 新潟県知事選挙に思う 櫻井和恵

東京電力柏崎刈羽原発の再稼働を最大争点にたたかわれた新潟県知事選挙で、市民と共産党、社民党、生活の党の野党共闘（民進党は自主投票）の統一候補・米山隆一さんが、自民・公明の推薦候補に6万票の大差をつけ当選しました。

「柏崎刈羽原発の再稼働を認めない」という県民の思いと、市民と野党の共闘の歴史的な結果だと思います。

故郷新潟の県知事選挙には強い関心を持っていましたが、私の中でも保守王国としてのイメージの強い新潟で市民と野党の共闘で長い間続いた自公民保守県政に勝利したことは大きな驚きと喜びです。美味しいお米自慢だけでなく市民と野党共闘の実現という大きなお国自慢ができました。新潟でも実現した市民と野党の共闘が、その後東京10区、福岡6区などでの衆院補欠選挙にも大きな力になることを期待していましたが残念な結果でした。

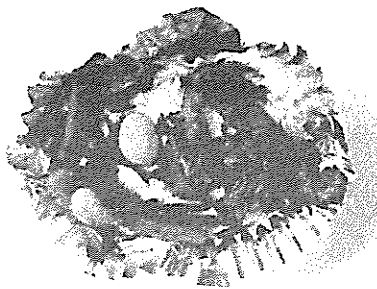
新潟では、命と暮らしを守る！、原発の再稼働をさせない！、TPPから新潟の農業を守る！という市民の願いが共闘を生みました。子どもたちの健康を守りたいと願うママたちが選挙事務所の運営に携わったり、演説会に子供連れで応援登壇したりと、大きな力になったということです。市民の願いと政策が一致し共闘をする、ごく自然のことです。政党の理念が異なるなどと言い、共闘に水を差す動きもありますが大変残念なことだと思います。

新潟の共闘の力が全国に広がっていくことを願ってやみません。

**新潟県で原発ノ一の声が勝利！ 野党共闘で知事誕生**  
一〇月一六日に投票された新潟県知事選挙では、柏崎刈羽原発の再稼働に反対する野党共闘の候補者が、楽勝と思われた自民公明推薦の候補者に大差をつけて当選しました。この結果に関して、新潟県南魚沼市出身の櫻井和恵さん（退職者会事務局次長）から、左記の「手記」が寄せられました。

### 簡単レシピ

## ひじき煮物の玉子蒸し



副菜の定番、家庭の味といえば我が家ではひじきの煮物です。

具材もひじき、人参、こんにゃく、油揚げ、大豆など多く入り出来上がりもたくさんできます。

二日目はアレンジして食べています。

### ..... 作り方 .....

- ① ひじきの煮物をアルミカップ（またはシリコンカップ）にひじき煮物を入れます。
- ② ①に卵の4分の1のだし汁で割った卵を入れます。玉子のみでも大丈夫です。  
これを3分蒸します。玉子のみの方はオーブントースターで焼いてもキッシュのようで、汁も出ないのでお弁当にもぴったりです。

## 沖縄統一署名のお願い

退職者会は区職労とともに節目節目に沖縄平和ツアーを企画し、沖縄と平和の問題を学習してきました。この6月には米軍属による女性暴行殺人事件に抗議する県民大会に退職者会の有志が参加してきました。

沖縄の事を考えることは平和について考える事です。沖縄を少しでも支援するために国会行動やデモ、署名活動も積極的に取り組んできました。

しかし、私たちの思いと裏腹に国は沖縄県の民意を踏みにじり、弾圧と暴力で辺野古に新基地、高江にヘリパッド建設を強行しようとしています。

現地では体を張って抗議活動が続けられています。遠くに暮らす私たちは簡単には現地に行くことが出来ません。しかし、出来ることは最大限取り組みたいと思います。

「沖縄県民の民意尊重と、基地の押し付け撤回を求める全国統一署名」、出来るだけたくさんの署名で沖縄を支援しましょう。

署名用紙をこのニュースと一緒に送ります。できれば、御家族やお知り合いの方にも協力をしていただいて、同封の返信用封筒で年内をめどに送り返してください。

なお、返信用の切手は後程お返ししますので、とりあえずご自分で用意していただくようお願いします。

**沖縄・高江の現状**

たった一五〇人の住人が住む高江集落を、ぐるりと取り囲んで進められるオスプレイ離発着訓練場の建設。激しい騒音に眠れない夜を過ごし、いつ頭上に墜落するかもしれない恐怖にさいなまれる住民たち。

連日一〇〇台を超す砂利を満載したトラックがやんばるの森を蹂躪し、大量の木々が伐採されている。

壊せば二度と元には戻らない貴重な自然を破壊し、県民を「土人」呼ばわりしながら蹴散らし、戦争準備のため、戦術施設づくりを強行する、これが沖縄の現状です。

# 今国会での年金改悪にストップを

## 「年金カット法」で暮らしの道が断たれる！

今国会に上程されているいわゆる「年金カット法案」が審議入りしました。この法案には二つの大きな改悪が盛り込まれています。

一つは、毎年約1%の給付をカットすることになる「マクロ経済スライド」の運用改悪（前号参照）、もう一つは、大原則であった「物価スライド」をやめて、物価と賃金の低い方の水準に合わせて支給額を変えていく方式への改悪です。

この改悪法案が通れば、①物価も賃金も上がった翌年の年金額は、物価が賃金の低いほうの上昇率からマクロ経済スライド分(約1%)を差し引いた分しか上がりません。②物価が上がっても賃金が下がった年の翌年は、賃金の減少率に合わせて年金が下げられます。この場合、マクロ経済スライド分は引かれませんが、次の年以降の物価が上がった年にまとめて削減されます。③物

この改悪法案が通れば、物価も賃金も上がった翌年は低いほうに合せて減らされます。マクロ経済スライドの扱いは②と同じです。今後、この改悪によつて年金が上がることは望めなくなり、年を追つて減る一方となることは明らかです。まさに年金暮らしにとつては死活問題、いや「死ね」というに等しい改悪です。退職者会は年金者組合などとともに、この法案を廃案にするために頑張ります。

秋晴れ、銀杏が香る日比谷野外音楽堂に約三千人がやってきました。「今度の国会に年金カット法案が出された」「年金を勝手に株式に投資し二〇兆円もの損失を出したそうだ」怒ッ怒ッ怒ッあふれそうな怒りを持つて私も参加しました。

むしろ旗が並び、のぼりが立てられ、思いを書いたゼッケンを身につけた人、怒りのオレンジ色のTシャツの人でいっぱいでした。全日本年金者組合や政党的の方のお話、わが水上会長も原告として加わつて裁判をたたかっている年金削減違法訴訟弁護団の弁護士等のあいさつがありました。どの方の話も、若い

### 年金一揆に参加しました

集会の後は銀座デモ行進。  
「年金下げろな」

「若い人も安心できる年金を」等と大声をあげました。高齢者集団のデモですから、銀座を道行く人々のみなさしがとても暖かく感じられました。デモは自分自身の気持ちを表現する舞台です。みなさん、今度一緒に行きましょう。

渡辺富子

## エンディングノートのすすめ 2 自分史を作ってみませんか

前回、もしもの時のためにあらかじめやっておいた方がいい最低限の事柄を書いてみました。

さて今回は、やってみたら意外と面白く新たな自己発見も出来る「自分史」を作るという作業をご紹介します。

自分史と言うと何か小説でも書くような難しさを覚えてしまいがちですが、自分史は創造ではなく作業です。新たに何かを作り出すのではなく、今までの自分を振り返って言葉に記録していく事ですから、記憶をたどる難しさはあるとしても事実あったことを書いていくのですからさほど難しくはないです。

### まず、「自分史年表」を作しましょう

まず最初に自分史年表を作ってみましょう。これなら文章が面倒という人でも作りやすいと思います。

生まれた時から就学前まで、義務教育時代から高等教育、就職から結婚…。あるいは10年づつとか年代を区切っていくと思出しやすく、また書きやすいと思います。

最近のことならいざ知らず、50年も60年も前の事など覚えてないとおっしゃる方も多いですが、そんな時に役立つのが日記や昔の手帳です。日記をつける習慣があるなら年表作りはどんどんはかどります。でも日記がなくても大丈夫、大概の人は撮った写真はアルバムや箱に入れて保管しているはず。写真は自分史そのものですので、写真を見ればその時代、自分がどんな状況でどんな出来事に向き合っていたか思い出すことが出来るでしょう。

また、写真は自分史の映像資料でもあります。要所に写真を貼り付ければ年表は奥行きを増してさらに見やすくなります。

しかし、60年も70年も昔のことはそう簡単には思い出せないでしょう。でも、眠れない夜や散歩の途中などに、ふっと思い出すことがあるかも知れません。それも嬉しいことです。期限のある仕事ではないので、少しずつ少しずつ自分史年表を楽しみながら作り上げていきましょう。

年表には自分の事だけでなく、その時々や政治の出来事を並列に書き出せば、自分と世の中のかかわりがさらに分かりやすくなります。つまり、年表作製は自分の出来事、家族の出来事、そして世の中の出来事を書き出して完成と言うことになります。

### 年表ができれば文章化作業に挑戦してみよう

自分史作りは年表だけでも充分です。もし、文章を書くのが好きなひとや厭わないひとなら、年表をもとに本格的な自分史を文章化してもいいでしょう。文章化すれば事実だけでなく、その時々や自分の感情や考え方を表すことが出来て、完成度の高いものになります。

それでは自分史を書く意味はなんでしょう。

もしもの時に、配偶者や家族が「自分史」によって故人を偲ぶやすがとする。あるいは人生の歩みを知ることによって故人の全体像をしっかりと記憶にとどめることが出来る、と言えるかも知れません。

しかし、最も重要なことは自分の人生を再確認出来るということです。去年、おとし、来年、再来年、せいぜいそのくらいの範囲でしか私たちは生きていません。どうしても目の先の状況にとらわれてがんじがらめになってしまいがちです。そんな時に自分の生まれた時から今まで、70年、80年を遠望した時、自分への新しい発見や今ある自分への新しい見方が生まれるかもしれません。

そろそろ「人生の終い」に当たって、もう一度自分の人生を見つめ直してみてもいいのではないのでしょうか。